ご飯に感謝

西武台千葉中学校　一年　山口実祐

僕の家のまわりは一面田んぼが広がっていました。僕が小学校低学年までは。ベランダから外を眺めると真っ先に田んぼが目に飛びこんできていました。しかし、僕の家のすぐそばを圏央道が通るようになり、その建設にあたり、今まで一面だった田んぼがどんどん圏央道に姿を変えてしまったのです。全ての田んぼが姿を消した訳ではなく「田んぼの中に圏央道が走る」これはこれで素敵な景色なのかもしれないけれど、僕にとっては何となく寂しさも感じていました。僕の祖父の家でも僕が産まれる前までは米作り農家だったそうです。しかし、圏央道建設にあたり田んぼを譲らなくてはならなくなり、米農家を辞めてしまったそうです。圏央道が僕の家のすぐそばを通る事で遠出するにはとても時間短縮など時代と共に暮らしは便利になり、喜ばしいまではあるが、やはり寂しさの方が強いで

す。

僕の家のまわりは変化したけれど、僕が小学校6年間通った通学路はまだまだ田んぼが一面に広がっており、通学に田んぼの中を通って学校へ行く毎日でした。田植えの季節、田んぼに水がはると風が冷たく感じたり、田んぼにおたまじゃくしやカエルが現れたり、稲が青々となって夏が来たり、秋は稲の穂が黄金色にゆれ、稲刈り光景を目にしたりと僕が季節を感じる事ができるとてもすてきな景色で大好きな景色でした。それぞれの季節ごとのどの作業にも稲を大切に守り、育てている農家の方々の汗を流す姿はとても力強い姿として僕の目に焼きついています。こうした様々な地域で、米づくりをしている農家の方々のお陰で毎日僕の食卓にご飯があり、お弁当にはおにぎりを持っていく事ができ、何よりも僕の元気な体を作っている源なのだろうと思います。

僕は小さい頃から食い細く、あまり食事の

量をたくさん食べれないけれど、少ない量でもやっぱり「米」は大好きです。

幼稚園の頃から空手を習っていますが、大会の朝は必ず母の愛情たっぷりのおにぎりを食べ、試合に臨んでいました。おにぎりを食べて臨むことでおにぎりを食べてきたから大丈夫！とおまじないの役目も果たしていた母のおにぎり。お陰で試合で勝ち上がったり、入賞したり、優勝も経験してきました。

中学生になり、お弁当を持っていく日が多くなりましたが、お昼の時間に母の作ってくれた白いご飯やおにぎりの入ったお弁当を開けるのが楽しみです。

テストの朝は緊張しているけれど、ご飯をしっかり食べる事で、「ご飯を食べてきたから大丈夫！」と空手の試合と同じ、おまじないをかけてテストに臨んでいます。

このように、僕が生まれてからここまで大きくなる過程には、ご飯は身体にも心にも大きな影響を与えてくれているんだなあと改め

て気づきます。改めて考えることをしない限り、僕にとってのご飯は当たり前の日々の食にすぎないでしょう。

今改ためて、お米を作って下さる農家の方々に感謝の気持ちを忘れてはならないと痛感しています。

これからも僕は元気の源となるご飯を一粒一粒大切に食べます。

コクヨ　ケ-10　20×20